

## 自称29歳の 元気母さん

集落の形が髪をとかず櫛に似ていることに地名の由来を持つ櫛島地区。開通したばかりの町道櫛島東無田線・櫛島避難路は、道路幅や視界も広がり安心して歩けるようになりました。さて、「櫛島熊野座神社」の境内にある公民館では毎週土曜日、地元の「カワセミ」のメンバーが健康体操に汗を流しています。男性2人女性6人で結成され、朝8時半から10時までみっちり体を動かします。

この中の最高齢が境田信子さん。年齢を伺うと「29歳です」と笑顔で即答。こんなふうな冗談で年齢の数字を逆さまに返されることはままありますが、ここは、「さすがにお若い!」と応えるのがエッチ



上空から見た櫛島地区は櫛形になっています (櫛島公民館展示資料)



櫛島熊野座神社前の道路や三差路も広くなりました



上/「カワセミ」の皆さんは毎週土曜日に集まります  
左/手作りの梅干し。天気のいい日に天日干しにします



御年92歳になる現役農家の境田さん



ケットというもの。

「朝の5時にトラクターで畑は打って大豆は植えてきた。『一手遅れが千手の遅れ』。先に先に事をなすことが肝心」と言う信子さんの心構えに背筋が伸びます。そんな信子さんは、35年前に夫を亡くしました。以来、小さな体の女手一つで田畑を守ってきました。「いろいろな人が手を差し伸べてくれなはった。こうして今があるのは、人さまのおかげです」と手を合わせます。92歳になった今も足取り軽く、働き者と評判の信子さんは「車の走行距離のごつ、人の額にメーターがあるならば、これまでの働き

ぶりは計られるばってん、それが分かれると、エンジンの下取りがきかんどね」と言いつてケラケラと笑いました。

## 森田家の手作りみそ

カワセミのメンバーの一人の森田美美さんは、10月に入るとみそ作りを始めます。「麴を28時間寝かせる」と雪のような麴の花が咲くんです。米と麦を一昼夜水につけ、炊いて潰した大豆を加えて発酵させて3日かかります。家族や親戚のための1年分のみそ作りは森田家の年中行事の一つです。



美美さんが手作りした合わせみそは風味豊か



みそや手作りの漬物など料理上手な森田美美さん



Vサインでご機嫌な繁さん



玄関先に飾られている美美さんの絵手紙

森田家の玄関にお邪魔すると、美美さん手描きの絵手紙が飾られていました。果物や野菜、花など季節の情緒が描かれています。「絵手紙に親しむようになってから、道端の花に心が向いたり、野菜や果物の見え方も変わりました」と話す美美さんの作品は、本紙の他、熊本日日新聞でも掲載され、読む人の心を潤しています。玄関先で冷たいお茶を振る舞ってもらおうと、西から吹き込む涼風ですと汗が引きます。顔を出した夫の繁さんは「嘉島の浮島さんの湖風や水を張った田んぼの風が流れてくるけん涼しかもんね。ゆ